

2026年9月8日にカンボジア社会問題・退役軍人・青少年更生省主催の
第21回ASEAN社会福祉・開発GO-NGOフォーラムに参加しました。

○会議概要

開催日・場所：2026年9月8日、カンボジア・プノンペン（対面とオンラインのハイブリッド開催）。

参加国：全ASEAN加盟国のSOMSWD（ASEAN社会福祉・開発高級実務者会合）フォーカルポイント、ASEAN事務局、開発・対話パートナー、国連機関、市民社会組織（CSO/NGO）等から85名が参加。

テーマ：Strengthening Social Service for People in Vulnerable Situations Towards a More Inclusive, Empowered, and Caring Society

目的：ASEAN加盟国の政府（GO）と非政府組織（NGO）が、脆弱な状況にある人々のための社会福祉サービスの強化について対話・知見共有・地域協力を行う。本フォーラムで取りまとめた提言は、第22回SOMSWDに提出される。

- ・当院からは、医療・福祉サービス研究部 上席主任研究官 大塚賀政昭が出席し、Session 2「多部門連携の強化」に日本代表のパネリストとして登壇。
- ・発表では、日本の地域共生社会に向けた取組として、重層的支援体制整備事業（2021年創設）と介護保険制度の生活支援体制整備事業を、多機関・多主体の連携を制度と財源で支える仕組みとして紹介。あわせて、人材確保や小規模自治体での実施の難しさといった課題を示し、他国の制度をそのまま模倣するのではなく、各国の社会保障制度の成熟度や目的に応じて仕組みを設計することの重要性、および福祉分野におけるアウトカム測定・評価の課題を提起した。
- ・フォーラムの成果として、第22回SOMSWDへの提言（Recommendations）が採択された。提言は、①包括的な社会福祉サービス制度の強化、②多部門連携の強化、③地域基盤・本人中心のサービスの促進、④質・アカウンタビリティ・エビデンスに基づく提供の強化、の4つの柱で構成され、評価・エビデンス基盤の強化や、各国の文脈と準備状況に応じた設計など、当院の発表と方向性を同じくする内容が盛り込まれた。

○プログラム

- 開会
- 概観報告（ASEAN事務局）
 - ・ASEANの社会保障枠組みと、脆弱層向け社会福祉サービス強化の取組
- パネルセッション（国際機関等のパネリストと加盟国による国別リフレクション）
 - ・Session 1：包括的な社会福祉サービス制度の強化（Strengthening Inclusive Social Service Systems）
 - ・Session 2：多部門連携の強化（Enhancing Multi-Sectoral Partnerships in Social Welfare and Development）※当院が日本代表として登壇
 - ・Session 3：地域基盤・本人中心の社会福祉サービスの促進（Promoting Community-Based and People-Centred Social Services）
- 提言草案の討議（Session 4）および提言案の提示（Session 5）
- 閉会、提言（Recommendations）の採択